

## ■ 投資銀行ビジネス

SMFGでは、三井住友銀行の投資銀行部門およびSMBC日興証券を含むグループ会社の力を結集することで、企業の資金調達・運用、M&A、リスクヘッジなど、さまざまなニーズに対し最適なソリューションを提供し、お客さまのビジネス展開や企業価値向上のお手伝いをしています。

### SMBC日興証券との連携

SMBC日興証券はSMFGの中核証券会社として、リテール・ホールセール事業ともに三井住友銀行と連携し、業務を拡大してきました。

リテールでは個人のお客さまへの証券仲介や顧客紹介を通じ、多様化する顧客ニーズに対し、銀証協働による取引深耕を図っています。ホールセールでは、平成23年度リーグテーブル(トムソン・ロイター)において、グローバル株式・株式関連 - 日本ブックランナー第3位(シェア18.1%、前年順位第11位)と大幅に順位を上げ、これまでの海外拠点における証券業務の拡充の効果が現れてきています。

また、M&Aファイナンシャル・アドバイザー業務では、銀行との連携や着実な案件の積み上げによって安定的な地位を維持できる体制を構築しており、「日本企業関連 公表案件(案件ベース)」の第2位(シェア3.1%、前年順位3位)を獲得しています。

加えて、三井住友銀行およびSMBC日興証券は、米国独立系投資銀行であるMoelis&Company(以下「Moelis」)とこれまでの業務協働関係を更に強化すべく、平成24年1月に新たに業務・資本提携契約を締結しました。Moelisが有するグローバルネットワークを活かし、日本企業によるクロスボーダーM&Aのニーズにしっかりと応えできるよう一層緊密に連携し、お客さまの企業価値向上に資する提案を行っていきます。



平成24年4月1日現在

## 豪亜地域における取り組み強化について

資源・インフラ分野を中心に海外のなかでもとりわけ大きな成長が期待される豪亜地域において、多様化・高度化するお客さまのニーズに機動的にお応えしていくため、平成24年4月に投資銀行部門各部の現地駐在機能等を集約し、新設部として「アジア投資銀行営業部」を設置しました。投資銀行部門プロダクトを総合的に提案することにより、お客さまの海外展開をより迅速にサポートしていきます。

### Topics

#### ◆ インフラファイナンス

アジアを中心とする新興国経済の成長取込を加速するため、三井住友銀行は平成23年度発表の中期経営計画にて「インフラファイナンスの強化」を掲げています。平成24年2月には、シンガポールに基盤を置く企業のインフラプロジェクト等を支援するプロジェクト金融会社へ参画し、同3月には、インドネシアにおけるインフラ整備開発に関する政府系金融会社PT Indonesia Infrastructure Financeへの出資・業務提携契約を締結しました。これまでプロジェクトファイナンスの分野で培ってきた専門性を活かし、各国におけるインフラ整備をはじめとした経済発展に資する付加価値の高いサービスに一層まい進しています。

また、平成22年7月に発足した部門横断的な組織である成長産業クラスタープロジェクトチームは、平成24年3月に経済産業省より日本総合研究所が受託したタイの工業団地のスマート化の事業化調査を、(株)東芝、(株)NTTデータ、伊藤忠商事(株)とともに再委託先として受託しました。本件で三井住友銀行はスマートコミュニティ実現に向けたファイナンスモデルの検討を行います。

このような事業化調査からファイナンスに至るさまざまな局面において、お客さまへのサポートを一層強化するため、平成24年4月に同チームを正式に「成長産業クラスター室」としてプロジェクトファイナンス営業部内に設置しました。

※クラスターとは本来<sup>みどろ</sup>葡萄などの房から、転じて群や集団を意味します。産業クラスターとは、特定の分野において産学官・異業種連携の広域的なネットワークが形成され、知的資源の相互活用によって新事業が創出される状態をいいます。